



移住定住者への支援 ()は担当

恵那暮らしサポートセンター(ふるさと活力推進室)

移住定住の総合相談窓口として設置。名古屋、大阪、東京での移住定住セミナー開催や恵那の魅力紹介事業、空き家バンク事業を実施。個別相談などで移住定住に関する疑問や不安の解決を支援します。

定住奨励金(ふるさと活力推進室)

固定資産税減免(税務課)

市外から転入した方が新築住宅を取得した場合、固定資産税を3年間減免し、奨励金25万円を支給。義務教育以下の子どもがいる場合は、子ども1人につき5万円を加算して支給します。

空き家改修補助事業(ふるさと活力推進室)

市外の方が、空き家バンクに登録してある家屋を賃貸か購入し、改修して生活する場合、改修費の2分の1以内を補助します(補助の上限100万円)。

奨学奨励金交付事業(ふるさと活力推進室)

市の奨学金を借りた方が、その返済期間中に市内に定住した場合、返済金の2分の1を交付します。

えなの木で家づくり支援事業(林業振興課)

地域材の柱を30本以上使い、市内の業者が新築した場合、市内の方には固定資産税を3年間減免、転入者には最大20万円を交付します。



▲母屋の庭で仲良く流しそうめんを楽しむ4世代の近居家族

ゆったり かいてき

恵那の暮らし



市の人口は、平成22年の国勢調査で17年の調査と比べ約2千人減少しました。27年の人口は、5万1100人と推計しています(図1)。市総合計画後期計画では、人口減少対策を重点的、優先的に取り組む主要プロジェクトに設定。ことし4月に、移住定住の総合窓口「恵那暮らしサポートセンター」を設置し支援を行っています。また人口減少対策の一つの方法として、3世代同居や近居世帯を増やすことも考えています。大勢の家族と暮らすことには、それぞれの考え方がありますが、家族みんなで支え合って暮らす生活も、選択肢の一つとして考えてみませんか。
お問い合わせ ふるさと活力推進室 26-2111 (内線382)

支え合って暮らす家族

特集1 3世代同居・近居のすすめ

人口減少対策の一つ

市では、市総合計画後期計画で主要プロジェクトの一つとして人口減少対策に、五つの柱を定めて取り組んでいます。総合計画を着実に進めるため、目に見える形で人口を増やす取り組みとして、移住・定住対策の事業を進めています。この事業では、新規移住定住者へ各種助成と税制優遇措置を行い定住の促進や空き家対策をしています。

また人口減少対策の一つの方法として、3世代同居や近居の支援の実施に向けた検討もしています。

見守りや子育て支援

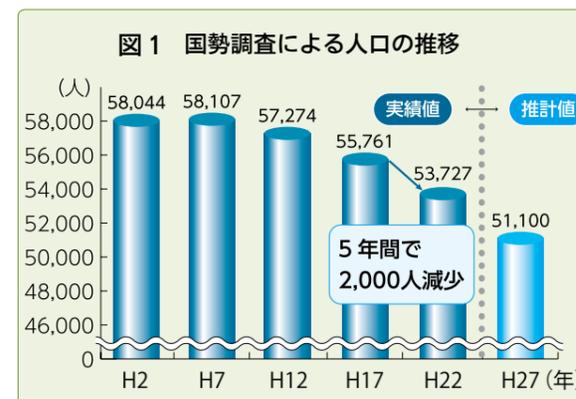
市内の世帯数は増えていますが、3世代同居世帯数は減っており、核家族化が進んでいます(図2)。3世代同居は、若い世代を基準として自分の子どもと親(配偶者の親を含む)の3世代が、一つの住居に住む家族形態。近居は、近くに別々の住居を構える家族形態です。

3世代同居や近居の支援は、若い世代の市外への転出を抑制することと、高齢者の見守りや若い世代の子育てなどの面で暮らしやすい環境づくりを進めるといふ二つの狙いがあります。全国的には、東日本大震災を契機に、家族の絆やみんなで暮らすことが見直されてもいます。

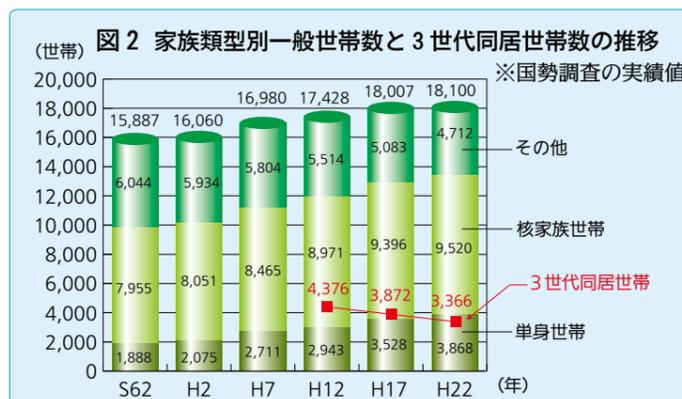
若年世代を支援傾向

全国的な資料から、3世代同居のメリット(良い点)は「にぎやかで楽しい」「育児や家事の担い手が多い」「子どもの成長に役立つ」「頼れる人の安心感がある」「家計の負担が少ない」。デメリット(悪い点)は「プライバシーが保てない」「人間関係での気遣いや気苦労が多い」「意見の相違や価値観の不一致がある」「余暇を好きなように使えない」「子ども(孫)の教育方針が合わない」などの意見があります。

今の3世代同居は、親の世代が子



※ベカラちゃん=市の移住定住対策事業のマスコットキャラクター



新しい生活の選択肢

これから結婚を考えている方や子育てで孤立して悩んでいる方、家を建てようと考えている方など、3世代同居や近居で家族で支え合い、学び合う暮らしも新しい生活方法の選択肢にしてみませんか。

次ページで、3世代同居や近居をしている家族の意見を紹介します。



飯地町 長谷部英司さんの家族

近居
8人家族

助け合って安心感を共有

祖父母世代

答1 県外で働いてた息子が、地元で仕事が見つかったため実家に戻り、結婚後、別棟を建て近居しました。

答2 家族が増え、楽しきがいもあり、みんなのために働くことができ、将来安心して過ごせます。

答3 特にありませんが、若い人たちの仕事や学校が遠くなり夕食の時間がそろわないことくらいです。

答4 互いに助け合っなくて外出でき、鍵を掛けることができ、安心です。

答5 家庭環境や事情によって異なるため、どちらとも言えません。

答6 考え方が合わないこともありますが、生まれ育った場所で生活するのは、家族同士支え合う意味でも大切だと思います。

答7 意見が合わないこと、食生活が違ふことです。

答8 考え方が合わないこともありますが、生まれ育った場所で生活するのは、家族同士支え合う意味でも大切だと思います。

答9 迎や共働きのために誰かがいるという安心感があり、にぎやかなことです。

答10 子どもたちの送迎や共働きのために誰かがいるという安心感があり、にぎやかなことです。

答11 別々に住むということを考えていませんでした。アパート代がもつたらないと考えていました。

答12 94歳の祖母と私たちも、孫からひ孫を手助けして、見て、元気に過ごすことができるので、ほけ防止になります。張り合いがあつてよいと思います。

若夫婦世代

答13 別々に住むということを考えていませんでした。アパート代がもつたらないと考えていました。

答14 子どもたちの送迎や共働きのために誰かがいるという安心感があり、にぎやかなことです。

答15 迎や共働きのために誰かがいるという安心感があり、にぎやかなことです。

答16 意見が合わないこと、食生活が違ふことです。

答17 考え方が合わないこともありますが、生まれ育った場所で生活するのは、家族同士支え合う意味でも大切だと思います。

答18 家庭環境や事情によって異なるため、どちらとも言えません。

皆さんの暮らしはどうか？



市内の3世代同居や近居世帯の声

市内で3世代同居や近居生活をしている世帯の中から、今回、4世帯の皆さんにアンケートを行いました。それぞれ、3世代同居や近居をどのように考えているのでしょうか。アンケートの回答を紹介します。

アンケート

- 質問1 同居(近居)しようと思った理由
- 質問2 同居(近居)して良かったこと
- 質問3 同居(近居)して良くなかったこと
- 質問4 同居(近居)をどう思いますか
- 質問5 同居(近居)を勧めますか



岩村町 竹内章雄さんの家族

近居
9人家族

互いに支え合い心に余裕

祖父母世代

答1 大家族が大好きで、近居の方が都合が良いと思いました。

答2 常に孫たちの声が聞けることがうれしく、大勢でにぎやかにおいしく食事ができることです。

答3 若夫婦とけんかになったときです。でも一緒に居られることに幸せを感じます。

答4 「ちよつとおじいちゃん見てて」などと互いに助け合うことができます。祖父母と接することで思いやる心や、優しさが自然に育っていくと思います。

若夫婦世代

答5 同居も近居も大賛成です。少子化などで人間が少なくなる世の中で、大家族で互いに支え合えば、心にも余裕ができ毎日を明るく過ごせます。

答6 長女の小学校入学が切っ掛けです。

答7 親は叱つてしまふので、子どもの逃げ道ができます。食事を食べさせてもらうことが多いので、助かっています(これが一番)。

答8 嫌だなと思ったり、けんかしたりすることもありませんが、翌日には笑つて「おはよう」と言えるので近居して良くなかつたと思つたことはありません。

答9 しつけや風習などを教えてもらえてありがたいです。

答10 お勧めです。子どもを預けて、自分たちの時間をつくれたいです。

答11 昔から大家族で生活してきて、3夫婦のときもあり自然に同居と思つていました。

祖父母世代

答12 昔から大家族で生活してきて、3夫婦のときもあり自然に同居と思つていました。

答13 いつも誰かが家を守って、留守を守らないことや、母が介護を必要としても、誰かが家に居てくれて見られることです。孫たちの笑顔を見てみると疲れも取れ、成長を見ることができて楽しみです。

答14 今のところありません。

答15 孫たちの成長に、おいても、幅広い世代との交わりはいろんな面でプラスになることもあると思います。私たちが若い方の話が聞けて、若くいられるのではと思っています。

答16 お勧めします。自分たちも年を取り何かがあつても心強いところがあります。

答17 親と一緒に仕事の方がよいと思つて同居しています。

若夫婦世代

答18 親と一緒に仕事の方がよいと思つて同居しています。

異世代との交わりプラス

同居
7人家族

三郷町 度會和良さんの家族



答1 子育てを助けてもらえ、家事を手助けしてくれます。家賃などが要らず経済的で、料理や風習などいろいろ教えてもらえます。仕事面では、通勤時間がないことやいつでも仕事の段取りなどの話ができることです。

答2 特にありません。

答3 同居は、若い方わけではないですが、個人的には、子どもにとつても祖父母と一緒に暮らしの方がよいのではないかと思います。

答4 お勧めです。デメリットの方が少ないです。

答5 お勧めです。デメリットの方が少ないです。

祖父母世代

答1 最初から別居だと思つて、子どもが学校を卒業したところからセカンドハウスを用意していましたが「狭くても同居がいい」と子どもが言つてくれました。

答2 経済的です。会話がが増えて明るくなりました。

答3 強いて言うなら余暇が半減しました。

答4 1歳2カ月の孫中心で、みんなで舞いしています。それぞれの欠点を補い合えるし、家庭内がにぎやかになつて良かったです。

答5 サラリーマン家庭でも、経済的にも家庭内がにぎやかにもなるので、3世代同居は良いと思います。

答6 自営業のため、アパートでの暮らしは通勤時間や家賃がもつたないで、いろいろ助けてもらえるかな」という期待もありました。

欠点を補い合いにぎやか

同居
5人家族

明智町 伊藤勇夫さんの家族



答1 両親の手がすいたときに子どもを見てもらえ、自分のやりたいことができます。子どもが見知りやません。困ったときには、すぐに相談できたり、さまざまな負担を補い合えることができます。

答2 今までの自分の生活を嫁ぎ先の生活に合わせることにしています。

答3 祖父母と生活することは子どものためにいいと思います。

答4 どちらもありません。いいことありません。いいことありません。いいことありません。

答5 どちらもありません。いいことありません。いいことありません。いいことありません。

雇用の確保も必要

人口の自然減少は仕方ないとしても、就職や結婚による他市への転出に少しでも歯止めを掛けることができないかと、人口減少対策プロジェクトで話し合ってきました。その対策の一つに3世代同居や近居が挙げられました。同居や近居は、経済面や子育てなどに利点がある他、女性が安心して働ける環境の一つにも含まれると思います。しかし同居したくてもできない事情には、近くに働く場所がないこともありません。行政には、テクノパーク(工業団地)などへの企業誘致をはじめ幅広い雇用の場の提供を期待するところです。

インタビュー



恵那暮らしサポートセンター運営協議会長 坪井弥栄子さん